

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 9 月 8 日現在

機関番号：32504

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25370868

研究課題名(和文) リキアにおける都市アイデンティティの形成と展開—碑文習慣の展開からの考察

研究課題名(英文) Formation and Development of City Identity in Lykia: Development of their Epigraphic Habit

研究代表者

師尾 晶子 (Moroo, Akiko)

千葉商科大学・商経学部・教授

研究者番号：10296329

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、古代東地中海の歴史をギリシア史・ヘレニズム史・ローマ史と区分して見るのではなく、東地中海、とりわけ小アジアの文化を通時的に考察することを目的とした。小アジアにおける多様な土着の文化が、時代とともにどのように変容していったかについて、《ギリシア化》という現象に焦点をおいてその現象がどのような側面で展開されていったかについて考察をおこなった。とくにリキアにおけるギリシア由来の制度の受容とその解釈のあり方、それによる土着文化の変化と強化について検討した。最終年度に、この問題関心を中心テーマに据えて国際ワークショップを開催し、今後この研究を共同研究として進めていくための土台を築いた。

研究成果の概要(英文)：This research explored the process of Hellenization in various places in Asia Minor, particularly focusing on the cities in Lykia, and tried to describe both their distinctiveness, unevenness and mutual relativity. In order to pursue this purpose, diachronic approaches and perspectives were applied. The Hellenization did not eliminate other identities and it coexisted with multiple, above all, indigenous identities for a long time, and their local identities were adopted, invented and re-invented through the ages.

At the end of this research project, an international workshop, titled ‘Asia Minor Workshop: Understanding the process of Hellenization in Asia Minor: New Perspectives---Culture and Identity between the Locality and the “Globalization” ’ was held at Kyoto University on 18-21 March 2016, and 4 scholars from foreign universities and 10 graduate students and scholars from Japanese universities read a paper. This workshop will be continued and hoped to be held regularly.

研究分野：古代ギリシア史

キーワード：東地中海世界 小アジア リキア 古代ギリシア アイデンティティ ローカルヒストリー 国際研究者交流

### 1. 研究開始当初の背景

本研究は、我が国の西洋古代史研究において、ギリシア史とローマ史の研究者の間での研究交流がきわめて限定的な形でしかおこなわれていない状況にあって、単なるギリシアとローマの比較研究ではない研究プロジェクトを立ち上げ発展させていこうとするものから生まれたものである。かかる目的ののった研究の場としてふさわしい場の一つが小アジアである。アルカイック期、古典期までの時代について、ギリシア史研究者の間で長年にわたって関心を集めてきており、またローマ時代の小アジアについては近年若手のローマ史研究者の間で関心を集めてきているものの、両者の研究は独立した研究としてすすめてきており、その交流は少なかった。そこで、小アジアを場として、共同研究を進めるための基礎研究をおこないたいと考え、この研究プロジェクトが誕生した。

### 2. 研究の目的

小アジアの中でも、本研究課題にあってはとくにリキアに焦点をあてて、リキアにおける都市アイデンティティのその展開について、主として碑文史料の分析に基づきながら明らかにすることを目的とした。また、国内外の小アジアを場とする西洋古代史研究者とともにワークショップを開催し、この問題について、継続的に共同ですすめていく環境をつくることをめざした。

### 3. 研究の方法

(1) リキアの一都市トロス遺跡の発掘に参加していることから、ここを拠点として、リキア都市の空間調査をおこなう。

(2) リキアにおけるギリシア語碑文について、いかなることががギリシア語で書かれたのか、その特徴について、通時的な変化に注目しながら考察する。そこからギリシア語で書くことの意味を問う。

(3) 主として碑文史料から、リキアにおけるギリシア的な習慣の受容について検討する。同時にそうした習慣の受容が、土着文化との間でどのような変容をしていったかについて考察する。

(4) 全体として見られるギリシア文化の受容と、緩やかな「ギリシア化=ヘレニズム化」の現象の内実を問う。

### 4. 研究成果

(1) 一般に小アジアの「ギリシア化」を考察するにあたっては、アレクサンドロス以降、すなわちヘレニズム時代以降が研究対象とされてきた。しかしながら、リキアにおいては、王朝時代からギリシア文化の受容はすすめられ、ギリシア語の韻文がモニュメントの

一部を飾ってきた。かかる現象は、リキアに限られたことではなく、しかしながら同時に地域偏差も大きいものであった。土着の王国時代からある種の「ギリシア化」がすすめられた背景には、これらの地域における頻繁な物資と人材の移動があったと考えられる。その一端については、学会発表 11 で触れた。

(2) 統一された国家を形成していなかったギリシア人の文化が総合的に「ギリシア文化」として受容された状況について、ギリシア人・ギリシア文化と非ギリシア人・非ギリシア文化という区別がどのように意識されたかということから考察し、学会発表 1, 3, 10, 12、および論文 10 などで発表した。

(3) 上記の区別・境界の意識がリキアのような本来非ギリシア人社会の形成されていた地に浸透したときに、土着文化がどのように再定義されていくのかについて考察をした。学会発表 13 は、この問題に切り込んだものであるが、今後さらに研究を深める必要がある。「ギリシア化」が生み出したあらたな土着文化のあり方について考えることは、グローバル化、グローカル化、地域性といった現代にもつながる問題関心へと広がっていくことが可能だと思われる。

(4) 本研究プロジェクトの総括として、2016年3月に京都大学大学院文学研究科西洋史学専修と共催で、京都大学において国際ワークショップを企画・運営した。ここでの報告者とタイトルは以下のとおりであった。  
Alexander HERDA - Persian, or Greek, or Karian? Hekatomnid Karia and Its Legacy  
Riet VAN BREMEN - *EIS TA PATRIKA* in Hellenistic Karia: Concept, Process or Practice?  
Christian MAREK - God or Ruler Cult? –A Hymn at the Hekatomnid Tomb of Mylasa  
Adele SCAFURO - Kos as Island Hub for Foreign Judges: a Look at IG XII 4, 1 132  
Masataka MASUNAGA - Visible Hellenization in Roman Asia Minor: The Case of Cos  
Alexis D'HAUTCOURT - Kos: The Island Where Tax Farmers Knew How to Party  
Takashi FUJII - The Epigraphic Habit of Cyprus in the Hellenistic and Imperial Period  
Noboru SATO - Hellenistic Didyma and the Milesian Mythical Past  
Takeo HASEGAWA - Asia Minor in the Western Mediterranean-the images of Phokaian Connections  
Tadafumi KUWAYAMA - Senators from Alexandria Troas: Roman Colonists and Greek Culture  
Akiko MOROO - Creating, Spreading and Proliferating of Local Tradition in Lykia

Kota KISHIMOTO – Lykian Koinon: Hellenized or Indigenous?  
Hajime TANAKA – St. Nicholas and Religious Landscape of Lycia: Worship of Angels in the Age of Justinian  
Satoshi URANO – Basilica of Tlos in Lycia on the Eve of the Middle Byzantine “Hellenization”

(5) 本研究課題は、基盤研究C「小アジアにおけるグローバル文化としてのギリシア文化とその地域性に関する研究」(平成28-30年度)として継続されることになった。今後定期的な研究会の開催とより大きなワークショップの開催を企画することになる。また、これによって、当初の国内におけるギリシア史研究者とローマ史研究者との共同研究を推進していく場がつけられることにもなる。

5. 主な発表論文等  
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 10 件)

1. 桜井万里子・師尾晶子「フォーラム：古代史研究から見た西洋史学の将来」に寄せて」『西洋史学』248号、2013、51-56、査読あり

2. 師尾晶子「トロス教会聖堂出土碑文の概要(4)2013年度の発掘から」『史苑』74-2、2014、168-175、査読あり

3. 田中創「2012年の回顧と展望：古代ローマ」『史学雑誌』122-5、919-923、査読なし

4. 師尾晶子「翻訳：デボラ・ボーデカー著ヘロドトスにおける僭主のスペクタクル」『クリオ』28、2014、104-118、査読なし

5. 師尾晶子「トロス教会聖堂出土碑文の概要(5)2014年度の発掘から」『史苑』75-2、2015、368-376、査読あり

6. 師尾晶子「ポリス顕彰とアテナイの外交政策-IG I<sup>3</sup> 29をめぐっての覚え書き」『千葉商大紀要』52-2、2015年、51-64、査読なし

7. 師尾晶子「書評：P.Matzavou and N. Papazarkadas eds., Epigraphical Approaches to the Post-Classical Polis. Fourth Century BC to Second Century AD, Oxford 2013」『西洋古典学研究』63、2015、121-124、査読あり

8. Hajime Tanaka, Libanius' *Pro Templis* (Or. XXX): Another Aspect of Ruler-Subject Relationship, *KODAI* 16, 2015, 161-172. 査読あり

9. 師尾晶子「古代ギリシアにおける石材・石碑の行く末と再利用」『千葉商大紀要』53-2、2016、27-40、査読なし

10. 師尾晶子「古代ギリシアにおける他者の発見と他者との境界をめぐる言説の展開-ヨーロッパという境界の策定の歴史的展開と近代における受容をめくって」『国府台経済研究』26-1、2016、9-27、査読なし

[学会発表](計 14 件)

1. Hajime Tanaka, Another “Asian” Aspect in the History of the Later Roman Empire, Kyoto Lecture & Workshop of Ancient History: New Approach to the Later Roman Empire, University of Kyoto, Kyoto, 8 March 2014.

2. Akiko Moroo, For Health and Safety of the Boule and the Demos of the Athenians: Inscriptions and Public Discourse, Workshop: Lycurgus in Transition: Old and New, Kansai Seminar House, Kyoto, 28 March 2014.

3. Akiko Moroo, Transformation and Re-Creation of Memory through the Ages: Local Pride and the Rendering of the Persian Wars, 3<sup>rd</sup> Euro-Japanese Colloquium: Myth, Sanctuary and Historiography, The Upper House, British School at Athens, Athens, 26 April 2014.

4. Hajime Tanaka, Theodosius' Religious Policy in the Ecclesiastical History of Theodoretus, 3<sup>rd</sup> Euro-Japanese Colloquium: Myth, Sanctuary and Historiography, The Upper House, British School at Athens, Athens, 26 April 2014.

5. 師尾晶子「デロス同盟期アテナイの外交政策-ポリス顕彰碑文からの考察」第64回日本西洋史学会大会、立教大学、東京都豊島区、2014年6月1日

6. 田中創「ローマ帝政後期の神殿利用-州民と官吏の相互作用」第64回日本西洋史学会シンポジウムA、立教大学、東京都豊島区、2014年6月1日

7. 師尾晶子「決議碑文建立の場としてのアクロポリスの成立-ペリクレスの建築プロジェクトと碑文文化」科研費《パルテノン神殿の造営目的に関する美術史的研究》の研究集会「アテナイ、アクロポリスにおける碑文と奉納文化の研究」筑波大学、つくば市、2014年11月22日

8. 師尾晶子「トロス2014碑文」2014年トロス遺跡聖堂遺構発掘調査報告会、立教大学、

豊島区、2014年11月29日

9. 田中創「テオドレトス『教会史』とテオドシウス帝」古代・東方キリスト教研究会第20回報告、東京大学駒場キャンパス、目黒区、2014年12月7日

10. Akiko Moroo, 'Barbaroi' in Attic and Greek Inscriptions, Oxford Epigraphy Workshop, University of Oxford, Oxford, 15 June 2015.

11. 師尾晶子「古代ギリシアにおける移住と移民」第39回地中海学会大会、北海道大学、札幌市、2015年6月20日

12. 師尾晶子「ギリシア語碑文にあらわれる《バルバロイ》の用法」古代史の会、東京大学、文京区、2015年10月23日

13. Akiko Moroo, Creating, Spreading and Proliferating of Local Tradition in Lykia, Asia Minor Workshop, Kyoto University, Kyoto, 20 March 2016.

14. Hajime Tanaka, St. Nicholas and Religious Landscape of Lycia: Worship of Angels in the Age of Justinian, Asia Minor Workshop, Kyoto University, Kyoto, 20 March 2016.

〔図書〕(計 6 件)

1. 本村凌二・樋脇博敏・田中創ほか『ローマ帝国と地中海文明を歩く』講談社、2013年、415ページ

2. 田中創『リバニオス 書簡集1』京都大学学術出版会、2013年、669ページ

3. A. P. Matthaiou, R. K. Pitt, Akiko Moroo et al. *Athenaion Episkopos. Studies in Honour of Harold Mattingly*, 2014, Greek Epigraphic Society, Athens, pp.347.

4. 東京大学教養学部編、田中創ほか『高校生のための東大授業ライブ』東京大学出版会、2015年、247ページ

5. Takashi Minamikawa ed. Hajime Tanaka et al. *New Approaches to the Later Roman Empire*, 2015, Kyoto University, Kyoto, pp. 183.

6. Toshihiro Osada ed. Akiko Moroo et al. *The Parthenon Frieze: The Ritual Communication between the Goddess and the Polis*, 2016, Phoibos Verlag, Wien, pp.175.

6. 研究組織

(1)研究代表者

師尾 晶子 (MOROO AKIKO)  
千葉商科大学・商経学部・教授  
研究者番号：10296329

(2)研究分担者

田中創 (TANAKA HAJIME)  
東京大学大学院・総合文化研究科・准教授  
研究者番号：50647906